

臨床腫瘍学

科目責任者 仁 保 誠 治
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

日本人のがんによる死亡率は、現在年間35万以上である。さらに、がん発症者の数で言えば、その倍以上の90~100万人となる。今後、高齢化に伴い、がん患者は増加すると思われる。2006年には「がん対策基本法」が成立し、2016年の改正では、患者の社会生活を支える内容が強化された。本科目では、最新のがん治療や病理診断、生物学等について、各専門分野から講義を行う。

II. 担当教員

教授 仁 保 誠 治 内科学（呼吸器・アレルギー），総合がん診療センター
教授 石 田 和 之 病理診断学
教授 今 井 陽 一 内科学（血液・腫瘍）
病院教授 江 島 泰 生 放射線治療センター，放射線医学
学内准教授 井 上 尚 呼吸器外科学，総合がん診療センター

III. 一般学習目標

腫瘍の病理，診断，治療等について理解し，診療の基本的事項を修得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 腫瘍の定義・分類について説明できる。
- 2) がんの治療方法について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション，ディベート 3: グループワーク 4: 実習，フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	14	木	4	がんの集学的治療・まとめ	仁 保 誠 治	1
2		14	木	5	がんの病理学	石 田 和 之	1
3		21	木	6	がんの放射線治療	江 島 泰 生	1
4		21	木	7	がんの薬物療法総論	井 上 尚	1
5		29	金	6	がんの生物学	今 井 陽 一	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

評価割合: 定期試験 (70%), 小テスト (20%), 出席状況・態度 (10%)

なお，定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅳ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 参考書：「新臨床腫瘍学（改訂第7版）」日本臨床腫瘍学会編 南江堂
- 2) 参考書：「入門腫瘍内科学（改訂第4版）」日本臨床腫瘍学会編 南江堂

VIII. 質問への対応方法

各講義終了後に直接対応。それ以外の場合は教務課を通して質問を受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

四
学
年

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験後に解説を公開。質問は教務課を通して受け付ける。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。